

岡病防第 23号
平成24年 9月25日

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第7号を下記のとおり発表したので送付します。

平成24年度病害虫発生予報第7号

平成24年 9月25日
岡 山 県

予報概評

作物名	病害虫名	発生量
水稲	トビイロウンカ	やや少
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多
果樹	カメムシ類	やや少
キュウリ	褐斑病	並
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	並
アブラナ科野菜	ハクサイ白斑病 ハクサイべと病 軟腐病 黒腐病 コナガ ヨトウガ アブラムシ類 モザイク病 ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ オオタバコガ	やや少 やや少 並 やや少 やや少 やや多 やや多 やや少 やや多 やや多 やや多
キク	ナミハダニ オオタバコガ	やや少 やや多

1. 普通作物

(水稲)

1) トビイロウンカ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における9月1～4半旬の誘殺数は12頭で、平年(30.3頭)より少なかった。

イ. 9月20～21日の巡回調査(南部地帯)では発生を認めず、発生圃場率は平年(22.6%)より低かった。

ウ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の発生をやや助長する要因となる。

(ダイズ)

1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は2,223頭で平年(1,961頭)並であった。

イ. 9月6～7日の巡回調査における白化葉(被害葉)の発生圃場率は33.1%であり、平年(33.0%)並であった。

ウ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の発生をやや助長する要因となる。

2. 果樹(全般)

1) カメムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における9月1～4半旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシは14頭で平年(120.1頭)より少なく、クサギカメムシは1頭で平年(2.6頭)並、ツヤアオカメムシは24頭で平年(69.5頭)より少なかった。

3. 野菜

(キュウリ)

1) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月20～21日の巡回調査によると発生圃場率は100%で、平年(89.2%、過去10年間のうち6年間で100%)並であった。

イ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、降水量は少ないとされている。高温は発病を助長する要因となるが、降水量は少ないと抑制する要因となる。

(キュウリ、ナス)

1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月20～21日の巡回調査によると、発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の発生をやや助長する要因となる。

(アブラナ科野菜)

1) ハクサイ白斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月21日の県予察圃場の調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月20～21日の巡回調査によると、発生圃場率は9.5%で平年(20.7%)より低かった。

ウ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、降水量は少ないとされており、発病をやや抑制する要因となる。

防除上の参考事項

ア. 秋作では生育中期から結球期に初発生することが多いので、初期防除を徹底する。

2) ハクサイべと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月21日の県予察圃場の調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月20～21日の巡回調査では発生を認めず、平年(8.5%、過去10年間のうち4年間は0%)よりやや低かった。

ウ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、降水量は少ないとされており、発病をやや抑制する要因となる。

3) 軟腐病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月21日の県予察圃場(ハクサイ)における調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月20～21日の巡回調査によると、ハクサイでは発生圃場率が0%で平年(5.9%、過去10年間のうち6年間は0%)並、ダイコンでは20.0%で平年(26.3%)並であった。

ウ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、降水量は少ないとされている。高温は発病を助長する要因となるが、降水量は少ないと抑制する要因となる。

4) 黒腐病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月21日の県予察圃場(ハクサイ)における調査では、平年同様発生を認

めなかった。

イ. 9月20～21日の巡回調査によると、キャベツでは発生圃場率が0%で平年(3.7%、過去10年間のうち8年間は0%)並、ハクサイでは平年同様発生を認めなかった。

ウ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、降水量は少ないとされている。高温は発病を助長する要因となるが、降水量は少ないと抑制する要因となる。

5) コナガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は0頭で、平年(1.5頭、過去10年間のうち6年間は0%)並であった。

イ. 9月20～21日の巡回調査によるとダイコン、ハクサイ、キャベツでの発生は認められず、発生圃場率は平年(ダイコン36.8%、ハクサイ26.1%、キャベツ28.6%)より低かった。

ウ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の発生をやや助長する要因となる。

6) ヨトウガ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 9月20～21日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の発生をやや助長する要因となる。

7) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 やや多
 モザイク病 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の黄色水盤における9月1～4半旬の飛来数は465頭で平年(335.4頭)よりやや多かった。

イ. 9月20～21日の巡回調査によると、アブラムシ類発生圃場率はダイコンでは0%で平年(0%)並、ハクサイでは10.0%で平年(6.5%)並、キャベツでは8.3%で平年(2.6%)よりやや高かった。モザイク病は、ダイコン、ハクサイとも発生を認めず、発生圃場率は平年(ダイコン16.5%、ハクサイ10.0%)より低かった。

ウ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の発生をやや助長する要因となる。

8) ハスモンヨトウ

予報内容 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は2,223頭で平年(1,961頭)並であった。

イ. 9月20～21日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の

発生をやや助長する要因となる。

9) ハイマダラノメイガ

予報内容 やや多

予報の根拠

ア. 9月20～21日の巡回調査によると発生量は平年並であった。

イ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の発生をやや助長する要因となる。

10) オオタバコガ

予報内容 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は4頭で、平年(2.6頭)よりやや多かった。

イ. 9月20～21日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の発生をやや助長する要因となる。

4. キク

1) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月20～21日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(14.9%)より低かった。

イ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の発生をやや助長する要因となる。

2) オオタバコガ

予報内容 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は4頭で、平年(2.6頭)よりやや多かった。

イ. 9月20～21日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月21日発表の季節予報によると、10月の気温は平年並または高く、本虫の発生をやや助長する要因となる。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。